

意見第1号

令和7年6月27日

綾部市議会議長 松本幸子様

提出者 綾部市議会議員
本田文夫
賛成者 綾部市議会議員
種清喜之
梅原哲史
井田佳代子

北陸新幹線の小浜・京都ルートの新検討を求める意見書

上記の議案を、別紙のとおり綾部市議会会議規則第14条第1項の規定により提出します。

北陸新幹線の小浜・京都ルートへの再検討を求める意見書

北陸新幹線の敦賀以西ルートについては、平成29年3月に与党(自由民主党・公明党)整備新幹線建設推進プロジェクトチームが「工期・工費・費用対効果」等の観点から小浜・京都間を大深度地下において長大トンネルで掘り進む小浜・京都ルートを決めた。

ところが、当該小浜・京都ルートは、昨年8月に開かれた与党北陸新幹線敦賀・大阪間整備検討委員会において、資材高騰や人手不足が影響し、概算事業費が当初試算から2倍以上の最大5.3兆円にも膨らみ、工期も15年から最長28年に延びることが国土交通省から報告され、ルート検討時の着工に係る前提条件に大幅な変更が生じた。

この試算に従えば、沿線自治体である京都府の事業費負担額も大幅な増加が見込まれ、それによって新幹線以外の公共事業が減少し、老朽インフラの改修や更新等に支障を来たすのみならず、教育・福祉・産業支援など広範にわたり京都府の諸施策への影響が懸念されている。その影響は、人口減少に苦しんでいる京都府北部地域自治体においても大きな影響を与えることは容易に想定することができる。

また、小浜から京都に至る長大トンネルは、「丹波帯」と言われる破砕帯が連続しており、破砕帯でのトンネル工事によって地下水へ大きな影響を与える可能性も指摘されている。

さらに、トンネルのルートは京都丹波高原国定公園の区域内を通過する計画で、綾部市民の上水道の水源として重要な役割を果たしている由良川上流域を掘削することとなり、水質への影響も懸念されている。加えて、トンネル工事による膨大な搬出土砂の30%程度には、酸化するとヒ素が溶出する黄鉄鉱の重金属が含有されており、搬出土砂や湧水等の管理にも永久的な管理が必要と分析されている。

以上のとおり、様々な不安要素が払拭されていない状況下において、当初の計画通りに小浜・京都ルートを強行することには大きな疑問を抱かざるを得ない。

よって、国におかれては、現在進められている北陸新幹線の小浜・京都ルートを再検討されるよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年6月27日

内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、国土交通大臣、環境大臣、内閣官房長官 宛

綾部市議会議員 松本幸子